



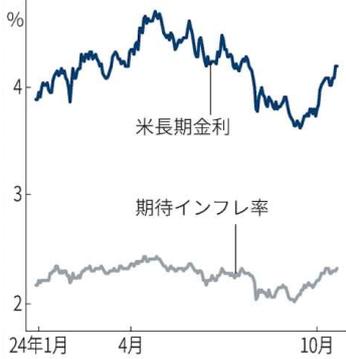
円一時 153 円台に下落 強まる「もしトラ」、インフレ警戒

23日の米金融市場で米金利上昇をきっかけにした円売りが進んでいる。長期金利が4.2%台と7月下旬以来の高水準をつけ、日米金利差が広がるとの思惑から円相場は一時1ドル=153円台と円安・ドル高が加速した。米景気が予想以上に堅調で利下げペースが減速するほか、2週間後の米大統領選でトランプ氏が優勢との見方が拡大。インフレ再燃への警戒が金利上昇につながっている。

長期金利の指標となる10年物国債利回りは前日比0.03%上昇(価格は下落)の4.24%で取引を終えた。高金利を得られるドルの需要が高まり、円相場は一時153円19銭と同2円超の円安・ドル高となった。

終値は前日比1円65銭円安・ドル高の152円70~80銭。市場関係者の間では「日本の金融当局からの口先円買い介入などが出てこなかったことで、市場参加者がドルの上値を探る展開となった」との見方が出ている。

金利上昇の一因はインフレ懸念



(注) いずれも10年物が対象

米金利上昇の背景の一つが予想以上に堅調な景気だ。足元では市場予想を上回る消費や雇用の強さを示すデータが相次ぐ。23日発表された米地区連銀経済報告(ベージュブック)も、全米の景気が9月からほぼ横ばいか、緩やかに拡大していることを示した。

市場は米連邦準備理事会(FRB)による景気後退入りを防ぐ予防的利下げの必要性が薄れ、利下げペースが減速するとみている。市場の年内の利下げ予想幅は1カ月前の計0.75%から0.5%

が主流になった。

大統領選直後の11月6~7日に開催される米連邦公開市場委員会(FOMC)でFRBの利下げは0.25%との見方が優勢だが、利下げを見送るとの見方も浮上している。

FRB 幹部からも利下げペースの見極めに慎重な発言が出ている。ウォラー理事は 14 日の講演で「データを総合的に判断し、利下げペースは 9 月会合で必要とされた以上に注意深く進めていくべきだ」と述べた。



大統領選を巡る思惑も金利上昇の背景にある。これまで民主党のハリス副大統領と共和党のトランプ前大統領の支持率がほぼ五分五分の接戦とみられていたが、ここに来てトランプ氏が優位に立っているとの見方が強まっている。

米国の保護主義、財政拡張的な政策を掲げるトランプ氏が当選すれば、財政赤字拡大と物価上昇を招くとの見方は多い。米国の元議員ら超党派で構成する「責任ある連邦予算委員会」によると、トランプ氏の公約では 10 年後までに 7.5 兆ドルの赤字要因となる。ハリス氏の政策はトランプ氏よりは小さいものの、3.5 兆ドルと見通す。

堅調な景気と財政拡張懸念によってインフレへの警戒が再び高まっている。市場が見込む今後 10 年間の期待インフレ率は 9 月からじりじり上昇し、足元はほぼ 5 カ月ぶりの水準まで上昇した。単純に計算すると、9 月初めから足元までの長期金利上昇分の 6 割をインフレ懸念の高まりが占めることになる。

スイスの金融大手 UBS は「トランプ氏が勝利すれば(金利上昇によって)ドルの上昇基調はしばらく続く」とみる。

米商品先物取引委員会(CFTC)によると、ヘッジファンドなどの投機筋(非商業部門)の円の先物とオプションの買越額は 9 月下旬時点で 8 年ぶりの水準に積み上がっていたが、10 月中旬には半分近くに減少。「更なる円高は期待しづらいとみた短期投資家による円買いポジションの手じまいがまだ続いている可能性もある」(三菱 UFJ 信託銀行ニューヨーク支店の小野寺孝文氏)と、円安・ドル高のさらなる進展を警戒する向きもある。

今後の金利・為替相場の行方を占う上で 27 日の日本の衆院選も注目となる。三菱 UFJ 信託銀行の小野寺氏は「自民・公明が過半数割れにならなければ、円の買い戻し・日本株の反転上昇があるかもしれない」と話す。



金、売り優勢続く 原油は上昇に転じる

24日午前の国内商品先物市場で、金は売り優勢が続いている。11時30分時点で中心限月の2025年8月物は前日の清算値に比べ120円安い1グラム1万3384円だった。前日まで連日で最高値を更新していただけに、利益確定売りが優勢となっている。もっとも、市場には米連邦準備理事会(FRB)の利下げ方針への転換などを背景に金の先高観は強いとの見方が根強く、「下がったところでは買いを入れたい投資家は多い」(国内商品先物取引会社のアナリスト)との指摘もあった。

原油は上昇に転じた。11時30分時点で中心限月の25年3月物は同70円高い1キロリットル6万8570円だった。日本時間24日午前の取引でニューヨーク原油先物相場が上昇しており、国内原油先物にも買いが波及している。



「排出量取引」違反企業に課徴金検討 2026 年度本格運用

へ 政府

2026 年度から本格的な運用が始まる二酸化炭素の「排出量取引」について、政府は企業ごとに排出枠を割り当てたうえで、制度に違反した企業には課徴金を科す方向で検討を進めていて、年内にも制度を具体化させる方針です。

企業などが二酸化炭素の排出量の削減分を売買する排出量取引は、2023 年度から企業が自主的に参加する形で、試験的な運用が始まっています。

政府は 2026 年度からの本格的な運用を目指し、専門家による会議で具体的な制度の検討を進めています。

政府は、排出量の多い大企業について、制度への参加を義務化する方針ですが、これまでの議論では、参加企業ごとに第三者機関の認証を受けた「排出枠」を割り当てたうえで、排出枠を超えたのに、ほかの企業から購入しないなど、制度に違反した場合には課徴金を科す方向で検討を進めています。

政府はさらに議論を進め、年内にも排出量取引の具体的な制度を固めたうえで、来年の通常国会に関連法の改正案を提出したい考えです。



「道路の出来」を左右する熟練技術が“全自動化” 実はめちゃくちゃ難しい!? 「支障がない程度には…」

道路の出来を左右するアスファルトフィニッシャーを無人化

2024年10月15日から18日まで千葉県の幕張メッセで行われた「ジャパンモビリティショー(JMS)ビズウィーク 2024」にて、道路舗装大手の日本道路がアスファルトフィニッシャーの無人化技術である「全自動フィニッシャー」を公開しました。

アスファルトフィニッシャーとは道路舗装に使われる建機の一つで、アスファルト合材を現場へ敷き詰める役目を担っています。その後、タイヤローラーなどが路面を固めて、ふだん利用しているアスファルト舗装の道路が完成します。

実はこのアスファルトフィニッシャーのオペレーターはかなりの熟練技術が必要なのだとか。担当者によると「アスファルトを平坦に敷き詰める技量が重要で、常に一定の速度で一定の間隔でアスファルトを出さなければなりません」とのこと。このオペレーターの技量が道路全体の出来をも左右するそうです。

もし、材料の量やフィニッシャーの移動速度を誤り、アスファルトの敷きムラが出てしまうと、たとえタイヤローラーのオペレーターが上手い人でも、ちゃんと平らな路面にするのは困難なのだそうです。しかし、昨今の建設現場は高齢化が深刻で、熟練技術を若い人に教える前に引退してしまうオペレーターも増えているそう。

その事態をなんとかしようと考えだされたのが、「全自動フィニッシャー」です。2年ほど前から実証実験を行っており、担当者は「上手なオペレーターには適わないものの、舗装に支障がない技術は提供できます」と話します。

通常、道路舗装の現場では、小型のアスファルトフィニッシャーはひとり、中・大型の場合はふたりのオペレーターが必要で、1つの舗装エリアを約10名で担当するそうですが、この技術を導入すれば、人員を2名は削減できるといいます。将来的には後続

のタイヤローラーの無人化し、作業員兼監視員がふたり程度、現場にいれば問題ないような少人数化プランも考えられるそうです。



IEA 大幅な供給過剰予想 2025年世界石油市場

IEA

大幅な供給過剰予想 2025年世界石油市場

【ロンドン】IEA（国際エネルギー機関）は15日、世界の石油市場が2025年、大幅な供給過剰に陥るとの見方を明らかにした。

IEAは今回、イスラエル・イラン間の報復攻撃など、中東の紛争拡大による石油供給混乱の可能性が高まっているものの、各先進国の石油在庫が12億バレル以上あるほか、OPECプラスの生産余力が過去最高水準に達していることに言及した。また中国のせい弱性を考慮し、2024年の世界の石油需要増加を前回予想から4万バレル引き下げ86万バレルとし、2025年を100万バレルと予想した。一方、米国やブラジルなどの非OPEC産油国の供給量が2025年にかけて150万バレル増、需要増加を上回る見通しを示した。

IEAの当局筋は「供給は現時点では維持されている。市場は大きな混乱もなく、新しい年の大幅な供給過剰の可能性に直面している」と説明している。



週間原油コストの推移

週間原油コストの推移

	期間	原油相場		為替レート(▲は円高)		円建て原油コスト	
		ドル/バレル	前週比	ドル/円	前週比	円/ℓ	前週比
火曜日～ 月曜日	9/10～9/16	72.02	▲ 2.15	143.51	▲ 1.96	65.00	▲ 2.86
	9/17～9/23	74.47	2.45	143.20	▲ 0.31	67.07	2.07
	9/24～9/30	73.93	▲ 0.54	144.99	1.79	67.42	0.35
	10/1～10/7	75.69	1.76	147.07	2.08	70.01	2.59
	10/8～10/14	78.76	3.07	149.55	2.48	74.08	4.07
	10/15～10/21	74.56	▲ 4.20	150.63	1.08	70.64	▲ 3.44
水曜日～ 火曜日	9/11～9/17	72.16	▲ 1.11	142.82	▲ 1.93	64.82	▲ 1.88
	9/18～9/24	74.71	2.55	143.94	1.12	67.63	2.81
	9/25～10/1	73.46	▲ 1.25	145.06	1.12	67.02	▲ 0.61
	10/2～10/8	77.21	3.75	147.83	2.77	71.79	4.77
	10/9～10/15	78.04	0.83	149.99	2.16	73.62	1.83
	10/16～10/22	74.38	▲ 3.66	150.85	0.86	70.57	▲ 3.05

※原油はドバイ、オマーン平均、為替レートは三菱UFJ銀行のTTSLレート